

令和5年度法人事業計画

社会福祉法人 幸輝会

・ 法人の使命

人間尊重の基本理念の下、地域社会に根ざした福祉活動を通じて関係性の維持、再構築を図り、地域の基幹的支援施設としての役割を果たします。

・ 現段階の総括と課題、問題点

昨年、幸輝会は創立50周年の節目の年を無事に迎えることができました。コロナ禍で記念行事らしいこともできませんでしたが、新たな半世紀を踏み出したこととなります。日本は既に少子高齢化により人口減少社会に突入しています。この先、生産年齢人口の減少は顕著となり、その中で事業を継続・展開し、福祉人材を確保することは今以上に困難になっていきます。とりわけ施設長・役職管理者には各事業所の経営資源を最大限活用してより質の高いサービスを提供することで利用者の満足、職員の成長に関わり成果を上げるための内部環境と法人全体の発展に経営幹部として組織環境のマネジメントにも参画する役割が求められています。

・ 今年度法人の基本方針

こうした厳しい環境下において、地域の福祉サービスの質と量の両面から維持していくために福祉現場における業務改善、効率性の向上を図っていくことは喫緊の課題となっています。福祉サービスにおける生産性向上の目的は福祉サービスの質や利用者の生活の質、地域における福祉の価値・機能を高めることにあります。

・ 今年度法人の全体目標

『職員一人ひとりに存在意義を発揮してもらう!』

・ 具体的行動目標

- 福祉サービスの質の向上（利用者の尊厳と意思の尊重）
- 福祉人材の確保・育成と定着（働き方改革の推進）
- 健全性と透明性の確保（コンプライアンスの徹底）
- 財務規律の安定強化（スケールメリットの活用）
- 持続可能な社会の実現に向けて（SDGsの取組み推進）
- 災害発生時に対する備え（BCPと体制整備）

・ 数値目標（各拠点事業所単位）

- ◇ 経常収支差額比率：4～5%±1%（指定管理事業所は6～7%）
- ◇ 事業活動人件費率：62%±1%以内
- ◇ 事業活動経費率：31%±1%以内

令和 5 年度事業計画

特別養護老人ホーム幸輝園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度は、施設内において職員や入所者の新型コロナ感染が続き、新型コロナクラスター（集団感染）事例もみられた。また感染者が施設内で療養することで、職員は日々感染対策に追われると共に、入所者においても、居室での生活が続き、ADLの低下や体力、気力の低下などを招くこととなった。ご家族においても面会が出来ない時期が続き、入所者、ご家族及び職員が不安とストレスを抱えて過ごした1年となった。

今年 5 月には新型コロナ感染症が「5 類」に引き下げられるが、重症化リスクの高い高齢者が生活される施設内では、引き続き感染対策を継続すると共に、感染症発生時の早期発見、早期対応を行う必要がある。一方で周囲がコロナ以前の生活に戻っていく中、施設生活においても、安全で楽しみのある、穏やかな生活を送れるように支援していく必要がある、改めて「with コロナ」での支援方法を検討する必要がある。

また、入所者の高齢化や重度化、医療依存度高い方の増加により、平均在籍期間が益々短くなっているが、職員個々の資質向上や多職種の連携体制を強化し、一人一人に合わせた支援を行う必要がある。

そして、地域包括ケアシステムを担う事業所の 1 つとして、1 日でも長く、住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活を送ることができるように取り組んでいく必要がある。

《サービス基本方針》

- ・ 感染対策を継続し、異常の早期発見に努めることで、入所者及びご家族が安心できる支援を行います。
- ・ 職員の資質向上のため、認知症ケア研修をはじめ、様々な研修等の機会を確保して、知識・技術の習得を援助していきます。
- ・ 入所者一人一人のこれまでの生活に着目し、楽しみのある生活を安全に安心して送れるように提案、支援していきます。

《行動目標》

『ひとりひとりのニーズに着目し、

ライフスタイルに合わせた生活を提供します!』

《数値目標》

- ・ 長期平均稼働率 96%（1日平均92名以上）
- ・ 短期平均稼働率 75%（1日平均13名以上）

令和5年度事業計画

高島デイサービス「通所介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 新型コロナ感染者が発生し、休館する日もあった。今後は感染対策を徹底し、サービスを継続して提供できる体制を構築していく必要がある。
- ・ 新型コロナ感染予防のため、外出行事の中止や提供できるレクリエーションが制限されてしまった。感染対策を行いながら、毎日を楽しく充実した時間を過ごしていただけるように、アクティビティ活動の充実、目標を掲げて達成できるように、取り組んでいく必要がある。
- ・ 利用者の高齢化や体調不良により、病院への入院、施設の入所等が重なり、稼働率が不安定である。利用者獲得に向け、特色のあるサービスを構築し、各方面に働きかけていく必要がある。
- ・ 認知症の利用者が増えているが、一人一人に合わせた対応が不十分である。職員間の連携の強化や職員一人一人の資質の向上を行い、安全で安心して利用できるサービスを提供できるように努める。

《サービス基本方針》

- ・ 利用者や家族とのコミュニケーションを大切にし、必要なサービス・求められている事に合わせたサービスを提供できるように努めていきます。
- ・ 利用者一人一人の理解を深め、相手の気持ちに寄り添った声掛け・ケアを行えるように努めていきます。
- ・ 各種研修に参加し、職員一人一人の介護技術、コミュニケーション能力のスキルアップに努めていきます。
- ・ レクリエーションの充実をし、活気あるサービス提供ができるように努めていきます。

《行動の目標》

『質の高いサービス提供を行い、地域に根付き、

多くの利用者を選んで頂けるような事業所作りをしていきます。』

《数値目標》

- ・ 目標稼働率 85%（1日平均21名以上）

令和5年度事業計画

幸輝園ヘルパーステーション「訪問介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 職員のコロナ感染によるサービスの休止や利用者の感染による中止、在宅生活困難による施設入所などがあり、訪問回数、提供時間の低下が見られている。感染対策を行いながら、継続したサービスが提供できるような体制作りや感染発生時に提供できるような代替えでの方法の検討が必要である。
- ・ 同じような理由（デイ送り出しや土曜日の提供等）での提供を検討される方が増えており、提供時間や曜日に偏りが見られている。ひとりひとりの提供状況を見直し、必要な利用者に必要なサービスが届くように調整をしていく必要がある。
- ・ 認知症利用者やご家族関係が複雑な利用者、身寄りがおられない利用者など、利用者を取り巻く状況も多岐にわたっている。提供サービスの明確化や緊急時の対応方法など、担当ケアマネジャー等関係機関との連携を図り、安心してサービス提供を受けられるようにする必要がある。

《サービス基本方針》

- ・ コロナ感染対策を行いながら、途切れることなく、サービス提供を行います。
- ・ 在宅生活を継続出来るように、関係機関と連携強化に努め、安心、安全で快適な暮らしを支援していきます。
- ・ ひとりひとりのライフスタイルに合わせた柔軟なサービス内容を提案し、自宅で少しでも長く生活出来るようにサポートします。
- ・ 職員ひとりひとりの資質向上に努め、職員間で情報を共有を行います。

《行動目標》

『利用者の生活に寄り添い、ひとりひとりのニーズに合わせた

安心して受けられるサービスを切れ目なく提供します。』

《数値目標》

- ・ 実利用者人数 50名（月延べ提供回数350回以上）
介護利用者 230回
総合利用者 120回

令和5年度事業計画

さつき園「地域密着型介護老人福祉施設生活介護」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・コロナ禍での生活が長期にわたり、考え方や取り組みが大きく変化しましたが、さつき園で過ごされているご入居者が少しでも楽しい毎日を送れるようコロナ禍でもできる方法を工夫しながら季節の花を見に行ったり、日光浴や散歩に出たり、園内行事や趣味活動など色々取り組みました。また「元気な時にご家族に会わせてあげたい」との職員の声を反映して面会も中止することなくご家族と会う機会を作っていました。まだまだご家族との触れ合いの時間は少なかつたと思いますが、これから少しずつご家族と過ごす時間を増やし、より楽しみがある生活を送っていただけるようにしていきたいと思えます。
- ・令和4年度は、入院者や退去者が少なく、比較的稼働率は安定してしていました。しかし、入居者の状況は、ベッド上で過ごす時間が増えている方、しっかり自分の意思を伝え余暇活動などを望まれる方等、個人差が大きくなっています。個々の状態変化に合わせて、「自分らしく」生活して頂ける様、介助方法や環境整備、余暇活動等の見直しを行っていく必要があります。認知症状の進行や身体機能の低下に伴い、食事介助、移乗介助等の介護量が増加している中、新しい職員が増え業務内容や手順の見直しの再確認が必要だと感じています。「さつき園の目指すユニットケアが何か」今一度振り返り、必要なスキルを着実に身につけられるようしっかりとしたサポート体制が必要だと考えます。また、感染症や緊急時においても適切かつ安全に対応ができ、安心してさつき園で暮らしていただけるよう体制整備へ向けて取り組みたいと思えます。

《サービス基本方針》

- さつき園における「ユニットケア」がさらに進歩し、多種多様化するニーズに応え支援致します。
- 「自分らしい暮らし」が送れる様、ご入居者の状態に合わせてサービスの見直しを行い心身ともに充実した日々を送っていただきます。
- 専門職として自己研鑽に努め、ご入居者個々の対応方法を職員間で共有し業務の見直しを行い、他職種とスムーズに連携出来る様努めます。

《行動目標》

『入居者一人一人が笑顔で過ごせる様、

変化に合わせたサービスを提供していく。』

《数値目標》

- ・入居平均稼働率 94% (1日平均 27名以上)
- ・短期平均稼働率 80~84% (1日平均 7~8名)

令和5年度事業計画

幸輝園デイサービスセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・コロナ禍も3年が過ぎ、ご利用者も手指消毒やマスクの着用が日常となり、自ら手指消毒をして下さるご利用者が増え、感染が広がることもなく終えることができました。今後は、新型コロナウイルスに対する考え方や対応も変化していきますが、重症リスクの高い高齢者の方が利用されることを考え、引き続き安心して利用して頂けるよう感染予防対策を行っていきたいと思います。また、今年度の経験を活かし感染された方に対する対応やご家族や関係各所への連絡調整等を円滑に行い、サービスを止めることなく継続できるように進めていきます。
- ・小グループの個別機能訓練では、ゲーム感覚で頭や手指を使い、楽しめるプログラムを用意しています。令和4年度からは、希望される要支援の方にも参加いただき喜ばれています。また、自宅での生活が継続できるよう筋力の維持向上に向け個別で平行棒やマシンを使ったり、手芸・クラフト工作・脳トレ等認知症予防にも取り組んでいます。今後もご利用者が満足していただけるサービスを目指して充実したプログラムを検討していきたいと思います。
- ・新規の問い合わせやご利用者の獲得もありましたが、利用の継続ができなかったり特養への入所や体調を崩しての入院もあり、安定した稼働には結び付きませんでした。ご利用者やご家族に寄り添ったきめ細やかな対応を心がけて利用の継続は、もとより居宅事業所への声かけ等を積極的に行いながら新規ご利用者の獲得に努め稼働率の安定を目指します。

《サービス基本方針》

- ひとつでも多くのヒヤリ・ハットに気付き、事故を未然に防ぐことに努めます。
- 感染予防に努め、安心して利用できるデイサービスを目指します。
- いつまでも住み慣れた地域・自宅で生活できるよう、利用者の状態に合わせた機能訓練やアクティビティ等 充実したプログラムを提供します。
- 情報発信等の新たな取り組みを行いご利用者やご家族に満足していただけるサービス事業所を目指します。

《行動目標》

『ご利用者のニーズに合わせたきめ細やかなサービスを提供し

安心して利用できるデイサービスを目指す』

《数値目標》

- ・平均稼働率 76%、1日利用平均19名以上（定員25名）

令和5年度事業計画

かたらい「小規模多機能型居宅介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・『「楽しい」「うれしい」を感じられるかたらいを目指そう』～一人ひとりと真剣に向き合い、きちんと理解しよう～」を行動目標に、個別のニーズを把握し生活スタイルに合わせた支援を行ってきました。引き続き生活の質の向上を目指し、ご利用者の声にしっかりと耳を傾けたいと思います。
- ・今年度も体調不良者には感染症対策を徹底し、生活支援の手が途切れることのないよう多職種が連携し支援内容の検討をしてきました。ただ、体調不良者を発見した際の対応にはまだ悩むことも多い現状にあります。緊急時の対応も含め、職員一人ひとりがしっかりと判断し対応する能力を持つことが課題です。
- ・現在平均要介護度1.8となっており、介護度としては軽度な状況です。ただ、認知症状の進行などにより「利用回数を増やしてほしい」と希望される事も多く、介護度とサービス量が比例していないケースが増えてきています。ご利用者のニーズや要望を把握した上で、必要なサービスを見極めていくことが重要だと思います。
- ・住み慣れた地域で生活が継続できるよう地域資源の活用に向け取り組んできましたが、コロナ禍の影響もあり十分に実行に移せていない状況です。地域とのつながりを閉ざさない為にもどう取り組んでいくかを考え、実行に移していきたいと思ひます。

《サービス基本方針》

- 小さなニーズも聞き逃さないよう、ご利用者の声にしっかりと耳を傾けます。
- それぞれの生活スタイルを理解し、その人なりの日常が継続出来るよう柔軟な支援を検討し提供していきます。
- サービス評価(事業所評価と地域の外部評価)において各職員が自己を振り返り、より質の良いサービス提供を目指します。
- 感染症や災害が発生した場合でも、必要なサービスが安定的継続的に提供される体制の構築を検討していきます。(BCPの作成)
- 地域推進委員会を開催することで地域の現状を知り、地域に欠かせない事業所として持続可能な社会作りに貢献します。(SDGs)

《行動目標》

『ご利用者の自立を目指して、必要な手を差し伸べよう』

～笑いのある活動的な毎日を送っていただけるように～

《数値目標》

- ・平均稼働率 93% (平均登録人数 27名以上)

令和 5 年度事業計画

幸輝園ケアプランセンター「居宅介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

コロナ感染報告が増え、サービス調整に追われましたが支援が途切れることがなく、食事確保や定期的な安否確認、関係者への連絡、救急車を呼ぶ助言など適切な対応が行えたと思います。精神疾患や認知症、目に見えない虐待など複雑かつ困難なケースが増え、ご利用者・ご家族の意向にズレが生じ、一人一人の思いに沿った選択が難しくなっているように思います。ご利用者・ご家族の調整役や地域に繋げることがケアマネに求められ、利用者の心身の状況、置かれている環境に応じ、適切なサービスが提供されるよう介護支援専門員としてのスキルが問われています。

公正・中立な立場でご利用者が望む適切かつ必要な介護サービスが継続的に提供されることや虐待の発生の防止・早期発見、再発をを確実に防止するための対策を検討し地域包括支援センターや後見センター等と連携を図ります。

引き続き感染症や自然災害発生時においても支援が途切れることなく、在宅での暮らしが継続できるように地域と協力しながら体制整備に向けて取り組みたいと思います。

《サービス基本方針》

- ご利用者の自立支援と悪化の防止に努めます。
- 虐待の発生の防止・早期発見に努めます。
- 介護保険制度に則し、コンプライアンスを遵守した公正・中立な業務を継続します。
- 一人ひとりが、業務改善・見直しに努め介護支援専門員としての資質・専門性の向上に努めます。
- 感染症や災害が発生した場合であっても必要な介護サービスが継続的に提供できるように業務継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施等をすすめていきます。
(BCP の作成)

《行動目標》

『感染症や災害が発生した場合であっても必要な

介護サービスが継続的に提供できる』

《数値目標》

- ・ 要介護 ケアプラン作成数 月平均 130 件
- ・ 介護予防サービスおよび介護予防マネジメント プラン作成数 月平均 32 件

令和5年度事業計画

かがやき「ケアハウス」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・令和4年度7名の入居者の入れ替わりがありました。体調を崩されて他施設へ転居された方、精神面や体調面で入院が必要となった方、ケアハウスでできる支援を行い、ぎりぎりまで頑張っておられた方などおられました。今後も関わるサービス事業所と連携をとりながら入居者の生活を支えたいと思います。
- ・稼働率では夫婦部屋の空床を補うことはできず28名となりました。夫婦部屋への入居希望が少ないため、希望があるタイミングを逃さず29名を満床を目指したいと思います。そのためにも地域住民や病院・居宅・他事業所等へ積極的な声掛けを行ってまいります。
- ・長引くコロナ禍で、入居者の感染に対する不安は変わりませんが、それでも入居者それぞれが制限された中で、ご自分で運動や散歩に取り組んで身体機能維持に前向きに取り組まれたり、感染状況に合わせてながら面会・外出・外泊・行事など行えたと思います。これからもご家族様との関わりを少しずつ回復しながら「楽しみ」やご自分の「したい思い」に取り組めるよう、入居者の声にしっかりと耳を傾け、ご家族様、ケアマネや他職種と情報共有を行い、必要な介護サービスに繋ぎ「入居者の安心した毎日と笑顔あふれる暮らし」を支えて行きたいと思います。

《サービス基本方針》

- 入居者が心身共に健康で安心した暮らしができるよう、ご家族様と他職種と連携して生活を支援いたします。
- 入居者のニーズが多様化している中、適切な提案や助言が出来るように職員一人一人のスキルアップに努めます。
- 笑顔あふれる暮らしができるように努めます。

《行動目標》

『入居者の「笑顔多い暮らし」の実現を目指します。』

《数値目標》

- ・定員29名に対し月初在籍29名を目指す。

令和5年度事業計画

みまさか園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

ここ数年のコロナ禍の中、全職員が力を合わせ感染防止と継続的なサービスの提供に取り組んできました。そうした中、令和5年度中に感染法上の扱いの見直しが行われるとの見通しも出てきており、社会活動においても様々なことがさらに緩和されていくように感じています。

それに合わせコロナ禍で制限されてきたご利用者の生活や施設介護の在り方についてもより良い方向へ変換が求められてくると思います。ご利用者がその人らしい生活をみまさか園で明るく送れるよう職員全体で考えチームワークをもって実践していきたいと思います。また、厚労省のケアプラン連携システムが開始されたり設備面でも当園のナースコールの改修が予定されており、さらなる ICT や介護機器の導入や活用について検討を行いご利用者の安全への配慮を行うとともに職員の負担軽減にも繋げていきたいと考えています。

《サービス基本方針》

- ・ご利用者、家族、地域を繋げる基盤として施設機能を発揮します。
- ・コロナ禍で制限されたご利用者の生活をより豊かで楽しみのあるものにしていきます。
- ・ICT、介護機器を活用しご利用者の安全を確保し、職員の負担軽減に努めます。
- ・SDGs の取り組みを推進していきます。
- ・BCP を策定し災害発生時に備えます。

《行動目標》

『個人の強みを発揮しながら HRT (ハート) の原則を大切にしよう』
(HRT の原則：謙虚、尊敬、信頼)

《数値目標》

- ・平均稼働率 長期入所 96% (1日平均 48人以上)
短期入所 85% (1日平均 17人以上)

令和5年度事業計画

ゆうゆうの里デイサービスセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

新型コロナウイルス禍になり3年が過ぎた。感染対策をしっかりと実施した上で、人と地域の繋がりに重点をおき、ゆうデイだからこそ出来ることは何かをチームで考え『らしさ』が提供出来るよう努めました。利用者一人ひとりの有する能力に応じ自立した日常生活を地域で過ごせるサービス支援を目標にしてきましたが、地域との関わりがなかなか取れず、ニーズに応える取り組みが出来ませんでした。

今年度は、ご利用者一人ひとりのニーズに深く取り組み、また住み慣れた地域で安心、安全に生活出来るよう支援をしていきたいと思えます。

《サービス基本方針》

- ・利用者、家族の立場に立ち、通所介護計画書に添った透明性あるサービスを提供します。
- ・他職種との連携をとり、向上心を持ち、職員ひとり1人が何をする事ができるかを見つけ、高い専門性を持ちサービスの質の向上に努めます。
- ・SDGs（効率的な事業継続、伴走型支援）の取り組みを推進していきます

《行動目標》

『サービスの質の向上を一人ひとりが目指し

地域とのつながりを大切にする！』

《数値目標》

目標稼働率 80%（1日平均40名以上）

令和5年度事業計画

ゆうゆうの里ヘルパーセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

令和4年度の行動目標「ご利用者の思いに寄り添う」については、傾聴と共感を意識して取り組みました。その結果、職員間の情報共有意識が強くなりスムーズなサービス提供ができたと思います。

一方で、介護技術の研修、実技訓練はコロナ禍の影響で紙面での確認で終わる事もありました。

本年度も「安全」「安心」なサービスを提供するために研修を行い、サービスの均一化と職員の資質向上を図ります。

前年度は、人員不足で訪問依頼をお断りする事があり、人材の確保は重要な課題となっています。またコロナ禍で訪問が後手にまわる事があり、訪問事業を適切に継続できるようにすることが昨年に引き続き課題です。

在宅生活を支える事が地域福祉を支える一助になるという自負を持つとともに、質の高いサービス提供ができるように真摯に仕事に取り組んでいきたいと思えます。

《サービス基本方針》

- ・笑顔で訪問。ご利用者の思いを知り、理解し寄り添い前向きな生活を送る為の架け橋となれるよう支援します。
- ・離れたご家族の方にも安心していただけるように、ご利用者の様子をしっかりと観察しサービス提供を実施していきます。
- ・報告・連絡・相談をしっかりと行い、法令を正しく理解してご利用者に負担のかからないサービスの提供に努めます。
- ・基本となる研修を行うことで職員個々の資質向上を図ります。

《行動目標》

『ご利用者を受け入れ尊重し、生活の質を維持し、住み慣れた家で
自分らしく過ごせるよう支援いたします』

《数値目標》

- ・実利用者人数 70名（月延べ提供回数 750回以上）

令和5年度事業計画案

ゆうゆうの里ケアプランセンター
「居宅介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度に続きコロナ感染症の影響を受け地域に出向いての活動が行えていない状況でした。業務も思うように訪問、面会が出来ない等、制限がありましたが、他事業所、他機関、医療との連携にてサービス計画は継続実施することができています。新規ご利用者の紹介では断ることなく全て対応しているのですが定着に至らず施設入所、入院も多くプラン作成数目標に達することができていません。

在宅生活が末永く続くために課題抽出時には先の予測を行い問題の起きる前の対応が出来るよう努めていきたい。ケアマネジャー1人ひとりの知識、技術を最大限に発揮しお互いが刺激しあい成長出来る事業所である為の学習、情報収集に力を注ぎ、担当ご利用者はもちろん、ご家族、地域住民の方々の協力を得ながら、あらゆる年齢全ての方の健康的な生活を確保し、福祉を推進していきたいと考えます。

《サービス基本方針》

- ・ 地域ケア会議への参加と地域課題解決への協力、実践を行います。
- ・ 多職種、他機関との連携を図ります。
- ・ 自己啓発に努め、知識向上、人間形成に努めます。
- ・ 特定事業所としての必要な責務を全うするよう努めます。
- ・ 施設内外での災害防止・食中毒や感染症防止に取り組みます。

《行動目標》

感謝の気持ちを忘れず謙虚で誠実な対応を実践する。

《数値目標》

- ・ 要介護ケアプラン作成数 月 150 件
- ・ 要支援ケアプラン作成数 月 10 件

令和 5 年度事業計画

ケアハウス さいわい

《現状の総括及び課題と問題点》

コロナ感染が落ち着かない中、令和 4 年度は施設内での時間の充実、身体機能、認知機能の低下を防ぐ取り組みを充実させ、ケアハウスでの生活をできる限り継続し生きがいを感じ、安心して生活できるよう支援してきました。

しかし、令和 4 年度は 7 名の入退所がありました。高齢化により体調の変化は早く医療介護を必要とされる方が後を絶たない状況です。在宅での生活が困難になられてギリギリの状況で入所され、ケアハウスでの生活を楽しんで頂きたいと思っておりますが継続出来ない方もおられました。

入所申し込み時の情報や面接等での情報収集に努めケアハウスで長く生活を送ってもらえる様に、また入所中の利用者には令和 5 年度も引き続き自立支援に努め安心して生活して頂ける様に支援いたします。

《サービス基本方針》

- ・ 年頭にご利用者一人一人が目標を立てられた事が達成できる様に見守りし支援いたします。
- ・ 介護サービス事業所、医療機関との連携強化を行いご利用者の自立支援に努めます。
- ・ 脳トレ体操やレクリエーションを充実させ脳の活性化を図り認知機能の低下予防に努めます。
- ・ コロナウイルス感染予防、体調管理、体力作りをし持病の悪化や病気の発症の予防、身体機能を維持し転倒を予防するとともに体調の変化時は医療機関に繋がります。
- ・ SDG s の取り組みを推進して行きます。
- ・ B C P の策定をし非常災害時に備へます。

《行動目標》

個人の自由な思想価値感を尊重し、その人なりの自立した生活が継続できるよう支援致します。

《数値目標》

- ・ 平均稼働率 15 名（15 名定員）

令和5年度事業計画

作東寮養護老人ホーム「養護老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

コロナ禍で面会や外出・行事などが制限された生活が長くなり、ご利用者の方々には我慢をしていただく事が多く、精神的につらい一年になりました。また、ご利用者の重度化が進み、自立の方から重度の方まで身体状況の違うご利用者への対応に難しさを感じた一年でもありました。このような状況下でありましたが、「ご利用者主体のケア」とは何かを養護会議で振り返りながら、ご利用者の気持ちに添った支援ができるよう、声掛けなどの個別の関りを増やす事に努めました。そう言った関りの中での「気づき」を職員間で共有し、迅速に対応することでチームとしてのケア力がより高まったように思います。

今年度も昨年と同様に「気づき」「気配り」を大事にしながら、ご利用者の方々の思いに寄り添い、日々の生活が少しでも活力ある生活となるように努めます。その為にも積極的にコミュニケーションを図ることで信頼関係の構築・日々のストレス軽減・活力ある生活の提供が可能になると思われます。

昨年度は一年を通じて満床にならず、経営面でも大変厳しい一年になりました。この状況を解決するためにも昨年に引き続き、「社会福祉法人」の役割として、近隣市町村の担当者との連携を強化し、地域における生活が困難で支援が必要な方への対応を行い、地域のニーズに答え、地域貢献できるように取り組みます。

《サービス基本方針》

- ご利用者おひとりおひとりと積極的にコミュニケーションをとり、安心して生活できる場に繋がるように努めます。
- ご利用者の思いからくみ取った気づきを大事にし、職員間で共有し迅速に対応します。
- 各々の職員が強みを最大限発揮すると共に苦手な部分を補いあうことでチーム力を高めます。
- 「認知症ケア」・「身体拘束撤廃」・「虐待防止」への理解を深め、適切なケアを継続していきます。

《行動目標》

『ご利用者の思いに寄り添い、

笑顔で生き生きと暮らせる生活を支援します』

《数値目標》

月初在籍60名

令和5年度事業計画

特別養護老人ホーム作東寮「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度と同様、新型コロナウイルスの感染者の状況や職員の体調不良等により、ご利用者一人ひとりと思うような「関わり」を持つことが出来ず、行動目標である『利用者一人ひとりを更に深く理解し、一人ひとりに合った個別ケアを提供しよう！』を達成することが出来なかった。また、ご利用者の高齢に伴い医療的な支援も多くなり、看取りまで視野に入れたケアも必要不可欠になっています。

令和5年度は、コロナ前の生活を取り戻し、ご利用者・職員共に楽しみ、笑顔の多い一年にしたいです。その為に、「ご利用者一人ひとりを深く理解すること」を念頭として、定期的に情報共有が出来る会議の実施。ご利用者に「楽しみ」を持って頂くイベントを実施します。また、機能訓練を通じて身体機能の維持、向上を目指したいと考えます。そして、看取りの体制づくりも同時に進めていきます。

「持続可能な社会をつくるための開発目標」SDGsを達成するために、「社会福祉法人」の役割として、近隣の病院、居宅介護支援事業者や社会福祉協議会等と連絡を密に行い、地域のニーズに応え、地域貢献できるように取り組みます。

《サービス基本方針》

- ご利用者一人ひとりを深く理解し、職員も共に楽しみながら、個別ケアを提供するために、カンファレンスや会議等を開催して、情報の共有に努めます。
- 「ヒヤリハット」・「事故対応策・改善策」の共有を行い、再発防止に努めます。
- ご利用者の希望（ニーズ）を実現するために、職員一人ひとりの長所（強み）を活かし、職員間の協力体制を整備します。
- みおつくしの基本行動心得を理解し、実践し、幸輝会の理念を深めます。
- 「認知症ケア」・「身体拘束廃止」・「虐待防止」への理解を深め、適切な支援をします。
- 地域の方々や関係機関との信頼関係を更に構築して、「作東寮」の存在価値を高めます。

《行動目標》

『ご利用者・職員が共に笑い、共に笑顔になれるサービスを提供します。』

《数値目標》

- ・長期平均稼働率 96%（定員40名に対して38,4名）
- ・短期平均稼働率 80%（定員3名に対して2.4名）

令和4年度事業計画

訪問介護ステーションいぶき「訪問介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

作東寮養護老人ホームでの外部サービス利用型特定施設入居者生活介護のご利用者への日常的な支援を行っています。

昨年度の上半期は、非常勤職員の勤務日数の減少により、サービス提供回数が減少する事もありました。また、現在のご利用者の状態として要介護認定を受けた状態で入所される方が多く、入浴や排泄、掃除等の支援の組み合わせが多くなっています。要介護3以上のご利用者もおられます。令和3年度と同様にご利用者の入退所も多く、作東寮で「安全・安心な生活」を送るために必要なニーズの把握が中々掴むことが出来なかった。

職員の構成は、非常勤職員の割合が多いため、効率的な職員配置を行います。自立支援を目指して、ご利用者の状態を把握するために定期的にカンファレンスを実施して、適切なサービスを提供できるようにします。

「持続可能な社会をつくるための開発目標」SDGsを実現するために、社会福祉法人の役割として、在宅での生活が困難で支援が必要な方への対応を積極的に行い、地域に貢献できるように取り組みます。

《サービス基本方針》

- 環境整備、排泄や入浴介助等サービスの質の向上を目指し、施設内研修等を活用し、快適な日常生活の提供を目指します。
- 職員間で連携を取り、利用者の残存機能の把握に努め、その機能が継続できる様、意欲が湧くような声掛けの支援を提供します。
- 利用者の状態把握に努め、他職種及び他部署との連携を円滑に行い、情報の共有に努めます。
- みおつくしの職員基本行動心得である「あいさつ」・「言葉遣い」・「みだしなみ」等に注意し利用者や職員にとって、より快適な生活環境を作ります。
- 会話を心掛け、ご利用者に寄り添い、思いを理解できるように心掛けます。

《行動目標》

「いつまでも作東寮で過ごす事が出来るように

安全で快適な日常生活を支援します。」

《数値目標》

- ・外部身体介護1 4,000回数/月
- ・外部身体介護2 360回数/月

令和5年度事業計画

養護老人ホーム塩手荘「養護老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

勝田郡老人福祉施設組合から指定管理を受け、令和2年4月1日より3年間経過しました。近隣の市町村からの措置決定者も少なく、定員60床の満床状態が維持することが困難な年度でした。

感染症に関しては、利用者の健康管理の徹底・外出の自粛・面会制限等を行ないていましたが、11月にはクラスターになり、職員利用者67名の感染者となりましたが、35日で収束を迎えることができました。幸いな事に収支にはさほど影響はありませんでした。

指定管理満了まで後2年となります。指定管理料がなくても収支状況が安定するようにする準備の年となります。措置者の受け入れ体制・特定入居者生活介護の充実を図った行きたいです。

《サービス基本方針》

『自立した生活、生きがいのある生活の提供を目指します』

《行動目標》

- 個別支援を通じて、生きがいを感じられるサービスを提供をします。
- ケアプランを充実させ、より良い生活環境を提供をします。
- 嗜好調査をもとに、リクエストメニューの充実を行います。
- 喫茶・カラオケを通じてコミュニケーションを図り、日常生活に必要な楽しみ場の提供をします。
- ご自分の現在の身体状況が分かり、改善できる様な機能訓練を提供します。
- 地域のサロンへ参加し、地域への貢献をおこないます。

《数値目標》

月初在籍 60名

令和5年度事業計画

訪問介護ステーションそよ風「訪問介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

勝田郡老人福祉施設組合から指定管理を受け、令和2年4月1日より3年間経過しました。定員60名の内、36名程度が要介護状態、4名程度が要支援状態の方は、外部型入所者生活介護サービスを契約をしています。

入浴・シーツ交換・排泄・居室内清掃が主なサービス内容になるので、均一したサービスが提供できるように、連絡調整を密に行う取り組みをします。

《サービス基本方針》

安全で快適な日常生活が送れるようなサービス提供を行います。

《行動目標》

- ① 環境整備、排泄、入浴介助などサービスの質の向上を目指し、施設内研修などを活用し、快適な日常生活の提供を目指します。
- ② 毎月一度職員間で連携を取り、残存機能の把握・支援方法の検討を行います。
- ③ 多職種連携、他部所連携を行い、情報の共有をおこないます。

《数値目標》

- ・ 外部身体介護1 3500回数/月
- ・ 外部身体介護2 250回数/月